平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果　（※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです）

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3091500086		
法人名	社会福祉法人守皓会		
事業所名	グループホーム愛宕苑　【ユニット名：第2ユニット】		
所在地	和歌山県有田市港町２９－１		
自己評価作成日	平成23年5月20日	評価結果市町村受理日	平成23年7月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3091500086&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　認知症サポートわかやま
所在地	和歌山市四番丁52　ハラダビル2F
訪問調査日	平成23年6月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当苑では、認知症という病気の方でも日常生活の中で役割を持ち「出来ること」を継続して行っていけるよう心がけています。また、入所者、職員共に一つ屋根の下で家族のように暮らせる温かいホーム作りを目指しています。入所者の方々には、安全、安心した居心地の良い自由な暮らし、職員のみんなには、楽しく、活気あふれる、やりがいのある仕事、また自分達が入所したいと思えるようなホーム作り、理念の一つでもある「人の輪」を大切にしてケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域での施設サービスや在宅サービスの経験が豊富な母体法人の運営方針のなかで、昨年7月に新設したホームである。サービスの質の向上にむけて家族や入居者にアンケート調査を行い、運営に繋げるよう努めている。家庭的なケアを提供できるよう、食事作りの経験の少ない職員の教育にも力を入れている。職員のチームワークもよく日々の介護に意欲的に取り組んでいる。国道を挟んだ筋向いには地域の人が集まるスーパーマーケットがあり、買い物の際、顔なじみと会う機会も多く、近くの赤岩観音は日常的な散歩コースにもなっており、入居者が外へ出ることを支援している。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

（※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念として「人間性」「人の輪」「ノーマライゼーションの精神」を掲げ、また行動指針として「思いやり」「感受性を豊かに」「創造性」「合理性」を掲げ、毎日職員間で唱和している。	法人理念から地域密着型サービスとしての意義を踏まえた暮らしへの支援はイメージし難く、地域密着型サービスの意義が職員に十分認識されていない面もみられる。	自宅に近い暮らしを支援する地域密着型サービスの意義を念頭に置き、職員の制服や名札についても職員間で話し合い「ノーマライゼーションの精神」の実践に繋げることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に開かれたホームを目指し、日常的に散歩や買物などに出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたりしている。また、定期的に行う消防訓練などに地域の方にも参加頂き、交流を深めている。	自治会には加入していないが母体の法人と地域とのつながりが築かれており、地域の情報が得られている。買い物はスーパーだけではなく個人商店も使って地域での付き合いが保てるように配慮している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしていない。今後、認知症に関する講習会などを開催し、地域住民の方々にも参加を促していくよう計画していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は現在1回のみ開催した。地域住民の代表者、入所者のご家族、市職員の方々から貴重な声を頂き、今後のサービス向上に活かしている。次回は平成23年7月頃を予定している。	入居者本人、家族、地域の住民、介護保険課課長がメンバーとなり、法人理事長も参加して2月に開催した。最初なので、スライドを使いグループホームの紹介をして入居者からの意見も出された。	運営推進会議を重ねる中で、地域での事業所の役割の認識を深め、運営に活用できるように、年間の開催回数を増やしていくことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	苑の入退所報告や地域包括支援センター、介護保険課との情報交換を行い、交流を深めている。また、空室情報も定期的に情報提供している。	市の介護保険課や地域包括支援センターとは連携を密にとるようにして、情報を交換しあっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ推進委員会を設置し、毎月開催している。ユニット玄関は常時、開放しているが、建物の正面玄関は国道が近いこともあり、ロック解除をしないと開かない仕組みとなっている。特に夜間帯は施錠している。	委員会を設置して取り組み、言葉による拘束にも気をつけている。建物の正面玄関は昼間はできるだけ鍵を掛けないようにしているが、安全確保のためエレベーターは長押しでのみ使用でき、階段にはアルミの門扉を設けている。	入居者の自由に外へ出たい気持ちに配慮して個々の入居者の行動パターンをつかみ、見守りを徹底することで、抑圧感の無い自由な環境の中での暮らしを応援することに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する外部研修に参加して、伝達講習会を行うよう計画している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修に参加して、伝達講習会を行うよう計画している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には電話連絡時や面会時に要望や不満などの意見を聞くようにしている。また、ご意見箱を設置して、投函できるようにし、それらの意見を事業運営に反映させている。	意見箱の設置、家族アンケート、入居者には本音を聞けるよう配慮して別ユニットの職員による聞き取りアンケートを行ない、意見を取り入れようとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を定期的に行い、職員の意見や提案を聞いて反映している。また、代表者が出席する会議を毎週行い、随時、報告、協議を行っている。	ユニット会議や法人の会議で意見や提案を聞く機会を設けている。日頃、職員が管理者やリーダーに質問・相談をしやすい関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績は人事考課を行い、昇給や賞与として反映されている。また、定期的に職員個々との面談を実施し、職場環境や悩み相談を把握するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、勉強会を2回実施している。また、新入職員に関しては、法人全体の新人研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣事業所への挨拶まわりや地域で行われる研修などに積極的に参加するようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査には管理者、介護支援専門員が必ず同行し、利用者の不安や要望に耳を傾けるよう努めている。また、入所初期には情報収集を入念に行い、安心を確保するための関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、不安なことをゆっくりと傾聴し、事業所として出来ること、出来ないことを明確に説明、話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査の情報とご家族の情報などを基に、ケアプランの原案を作成している。その中でます必要としていることを見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で炊事、洗濯、掃除など家事は、利用者と一緒に行うよう心がけている。自分で出来ることはしていただくよう促している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来苑されたときには必ず近況報告を行うようにしている。また、ご家族と一緒に記念撮影を行い、写真をプレゼントするなどし、家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から使用している馴染みの家具や大切にしている物は出来るだけ持ってきてもらうよう呼びかけている。 また、その方が暮らした地域へのドライブなどを取り入れている。	近隣の入居者が多いので、入居者の顔なじみの隣人等友人が訪問しやすく、近くのスーパーで知り合いに会うことも多い。なじみの人に会う機会のない人には個別に機会を設けて支援することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について、すべての職員が共有できるように整備している。クラブ活動などでそれぞれの入所者同士が交流し、関係がうまくいくように調整している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、見舞いに行くなどして関係を継続するように心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が発した言葉や希望など細かく記録し、ケアプランに反映させるようにしている。	職員間で情報を共有しやすいように、センター方式を使用して情報を集め、24時間シートで心身状態を把握している。ケース記録に一人ひとりの思いや言葉を書きこみ、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用して情報収集を行い、把握するようにしている。また、定期的に担当者会議を行って経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用して24時間シートを作成し、出来ること、出来ないことを把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議、ケース会議を行い、現状に即したケアプランを作成している。	職員とは会議で話し合い、日頃の電話や訪問時に家族から聞いた内容も取りいれて、今できていることを継続し、よりよく暮らすためにプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、会議や申し送り時に職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況に応じて、通院や外出等必要な支援は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や自治会など地域にある資源との協力は積極的に行うよう体制を整えている。 安全面では系列の病院を協力病院として24時間の医療を受けられる体制を整えている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望する医療機関に受診することができるよう支援している。	特別な病気で専門医を受診する必要のある場合以外は、本人や家族がホームの協力医療機関をかかりつけ医に希望する場合がほとんどである。健康面に配慮し、定期的に訪問看護を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している訪問看護ステーションより原則、2週間に1度健康チェックを受けている。また、それ以外でも日頃ホームへの出入りを多くして、看護師との関わりを持っていただいている。入所者の状態悪化時などにはすぐに連絡できる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者に関する情報を記入したサマリーを持参している。定期的にお見舞いに行って、病院、ご家族との情報交換、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項の説明時に看取りに関する方針と支援方法について説明している。	看とりの経験は未だないが、終末期のあり方について事業所の方針を説明している。重要事項説明書に、事業所の看取り介護の考え方から具体的な支援内容まで明記している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会等で急変時や事故発生時の訓練を行っている。また、救急隊による心肺蘇生法の講習も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回行う訓練に地域住民や利用者にも参加してもらい、施設の実態を把握してもらうよう促している。	事業所単独で、年2回消防署の協力を得、入居者、地域の人とともに行っている。近くの法人施設を地域の避難場所として提供しており、備蓄は30人・3日分を法人施設の倉庫に確保している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライベートスペースは個室にてプライバシーに配慮している。個人ファイルなどの書類は書棚になおすよう心がけ、守秘義務を徹底している。 個人情報については、必要な情報提供や居室の名札の明示など書面にて同意を得ている。	職員は入居者の誇りを傷つけないように、丁寧な対応、言葉づかいを心がけている。居室のドアにはめこまれた透明ガラスや、トイレのパッドの個人名の表示など、プライバシーの配慮に欠ける面がみられる。	透明のガラス窓は介護する側の視点としては有効であっても入居者のプライバシー侵害になっていることを考慮し、のれんやシールなどの工夫で、居心地の良い居室とすることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の要望を出来るだけ受け入れるようにして、介護者の一方的な支援や介助を行わないようにしている。また、アンケート調査を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に無理なく、出来ることを手伝ってもらったり、趣味を生かした生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思決定で衣類を選んでもらい、着てもらうように心がけている。 第2、4月曜日は訪問理容サービスを受けることができる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の利用者に合わせた時間帯に食事をしている。自分のペースで食事ができるよう十分な食事時間をとっている。 利用者の希望する献立を立てている。 定期的に外食に行ったりして楽しんでいる。	調理の手伝いや後片付けをする人もいるが、大部分は職員のみで行っている。多くの入居者はできた食事をサービスされ、職員は立って見守っている。	買い物、調理、食事を職員が入居者と共に行うなかでのことを、コミュニケーションの材料とし、食を楽しみ、身体機能の維持を図ることや、自信や意欲を持った生活に繋げていくことが望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立をベースにして作成している。栄養面への配慮をし、体重表の管理、食事、水分量を毎日記録し、把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後に口腔ケアを呼びかけ、実施している。就寝時には義歯の管理、洗浄を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記録を行い、排泄パターンを把握している。必要時はトイレ誘導を行い清潔保持に努めている。	排泄の自立支援に努め、できるだけおむつを使用しない取り組みをしている。排泄表でパターンをつかみ、トイレ誘導などでリハビリパンツから普通のパンツになった入居者も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便、運動量、水分量をチェックしている。便秘の方には主治医の指示にて服薬コントロールしている。また、腹部マッサージや腹部温罨法を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回以上入浴していただいている。体調不良等で入浴できない場合は身体清拭を行っている。本人の希望により、入浴時間の変更もできる。ADLの重度化に対応するため、中間浴槽も設置している。	昼間の決められた時間帯で週2回としている。1階ユニットは特殊浴槽なので、必要な数名以外は全員2階ユニットの浴槽を使用している。拒む人には無理強いはせずタイミングを見て対応している。	1階の人も2階で入浴するので人数が多く難しい面もあるが、時間帯による人員配置を見直すなど、個々の希望に沿った柔軟なケアを行う工夫がほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠を妨げる光や音が利用者の部屋に入らないように配慮している。不眠の訴えがある利用者には日中の活動内容を見直し、昼夜逆転を軽減させるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理し、服薬介助を行っている。各職員が服薬効能を把握している。服薬介助について、留意点を話し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活暦等の情報収集を行い、個々にあった楽しみ方で生活してもらっている。また、職員は個々の情報を共有、把握している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出や外泊は自由にすることができる。定期的に外出するレクリェーションを企画し行っている。利用者に行き先を選んでもらい、個々の行きたいところへ外出している。	近くの赤岩観音に散歩に出たり、スーパーに買い物に行くなどの支援をしている。入居者がホームへ戻らなくなるのではと、外出や外泊の協力を躊躇する家族には安心できるよう十分説明して、支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理できる程度で、少しの所持金を持っていただいている。希望時には一緒に買物に行って、欲しい物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話対応は予めご家族に電話しても良いか意向確認している。出来る限り本人が自由に電話できるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの環境整備を徹底し、清潔にしている。季節感を実感出来る飾り物や作品を展示している。また、衝立を利用して居心地良く過ごせるように空間作りをしている。	各ユニットの入り口は温もりを感じる木の格子戸である。1階のリビングからはウッドデッキに出て裏山を見ながら外気に触れられる。テレビのある畳のスペース、ソファなど、寛ぐスペースが用意されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	衝立を利用して居心地良く過ごせるように空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には使い慣れた家具や馴染みのある物を持ってきていただくよう呼びかけている。 居室のレイアウトは自由に行うことができ、和室にすることもできる。	居室は作りつけの収納スペースとベッド・床頭台が備え付けられている。テレビや写真など小さな身の回りの物を持ち込んでいる部屋もあるが、ほとんど生活感の感じられない部屋が多い。	家族にも理解と協力を働きかけ、自宅とのギャップが少ない、生活の場として居心地の良い、その人らしい居室への工夫が望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や歩行スペースの確保、手すり、バリアフリーと自立した生活が送れるよう工夫した作りにしている。		